

た。それによると、この5人の関係は相互選択により、深く互いに指向されている。ところがその反面、新しい仲間との関係が9ヶ月後現在において浅いように思われる。

以上のようにソシオメトリックテストを通して集団構造をみたのですが、問題点として、孤立者が多いことがあげられる。又、集団の結びつきが一般にくらべ非常に弱いと思われる。その要因としては、年齢差が大きい、日常生活状態の相違、余暇時間が少ないなど様々な要因が考えられるが、今後これらの問題についてさらに検討していきたい。

39 PMD低IQ児に音楽療法を試みて (そのⅡ)

国立療養所西別府病院

吉 良 陽 子 寺 田 真 弓

〔目 的〕

私達は昨年度より、筋ジスであり、かつまた知恵遅れであるPMD低IQ児の問題行動について、音楽による心理療法によってどのように変化していくかという課題にとりくんできた。

昨年度の音楽療法の場への適応を旨としたのに続いて本年度は、音楽による自己表現力の養成さらに実際の病棟における生活場面での変化を期待した。対象児は表Ⅱのごとく4人である。

〔方 法〕

4人を一室に集め、彼らの興味を示す曲、即ち童謡、日頃聞きなれた流行歌、リズムカルな曲などをくり返しかける。その際、音楽に対し注意を向けるよう一緒にリズムをとったりなどして働きかけをする。また音楽表現が出やすいように楽器を与えたりなどして援助し情緒の反応をひき出す。同時にチェックリスト(表Ⅰ)を作成し、療法中や病棟内での様子について観察をした。

〔結 果〕

好きな曲を与えるうちに重度の知恵遅れの2人は曲にあわせて歌ったり、体でリズムをとったりして

表Ⅰ チェックリスト

目の表情	
顔の表情	
手の位置	
姿 勢	
会 話	
緊 張	
快 感	
嫌 悪	
興 奮	
喜悅のしるし	

(音楽療法前後の行動・状態)

- ・平穩、興奮
- ・他児との関係
- ・職員との関係

年 月 日患児名 _____

いる。中度の知恵遅れの2人は顔の表情には楽しんでる様子がうかがえるが、自己表現にまでは及ばないので楽器を与えた。すると表情は前にも増して生き生きとし、自己流ながらも楽しそうに演奏していた。チェックリストでは、目、顔、手の位置、会話、快不快などの音楽療法中の表情や態度、療法前後の様子、また他患児や職員との関り方などをチェックし、観察の手がかりとした。

2年にわたる音楽による心理療法の結果から個別の変化について述べてみる。

表Ⅱ 対象児の問題行動とその変化

対象患児	年齢 学年	障害度 病型	IQ 入院年数	問題行動	療法中の様子	現在の様子
T・S	12才 特小6	Ⅱの7 D型	WISC 40 5年	気分の変化激しい。 周囲の人とうちとけない。	緊張感強い。 楽器をもたせるとそっとならず。	病状の進行が著しく特に変化なし。
H・Y	8才 特小2	Iの4 D型	田中ひね 50 2年	すぐに情緒的反応をする。 言語表現力乏しい。	消極的に適応している。 楽器を鳴らすと生き生きしている。	情緒の安定とともに言葉も豊かになった。
S・T	11才 特小5	Ⅱの7 C型	不能 5年	自傷行為、尿失敗 異食 気分の変化が激しい	適応に時間がかかった。 好きな歌や手拍子を要求する。	自傷行為、尿失敗減少 気分の激しい変化は減る。
T・T	10才 特小4	Ⅱの8 C型	不能 3年	頻尿、分離不安強い 興奮しやすい。	すぐに適応し、楽しそうに療法時間を過ごす。	頻尿、尿失敗なくなる。 夜間の奇声、泣声減少。

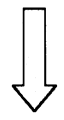
〔症 例〕

- ① T・Sは以前に比べ病状の進行が著しく認められ、短時間の座位姿勢保持にも苦痛が伴い常にイライラしている。他患児との交流も消極的であり音楽療法を受けとめるゆとりもあまり無かったようである。従って効果はほとんど病棟内ではみられなかった。
- ② H・Yは病棟生活に慣れてきたこともあり、以前に比べ顔の表情や話し言葉などが豊かになった。感情の爆発もなく人の話にも耳を傾けることができるようになった。
- ③ S・Tは療法開始時に多かった自傷行為や排尿排便の失敗が徐々に減少しはじめ、現在ほとんどみられない。感情の激しい起伏もみられなくなった。
- ④ T・Tは頻尿や夜尿もなくなり、夜間睡眠中の奇声や泣声も減り、情緒的に安定してきたと思われる。

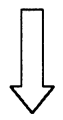
〔結 び〕

PMD低IQに音楽療法を試みることにより、私達は結論として以下の2点を得た。1：PMDのように体を動かすことが極めて困難であり、また自己表現力に乏しい低IQ児の情緒面に直接訴えるような音楽療法は効果的であった。2：症例①の患児のように病状の進行が著しく心理的に不安な状態にある場合、集団療法と個人療法の2つの方法を併用することも検討することが必要である。

最後に、これらの対象児の行動の変化には一人一人の自然の成長発達が伴っていたということ
をつけ加えておきたい。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔目的〕

私達は昨年度より、筋ジスであり、かつまた知恵遅れである PMD 低 IQ 児の問題行動について、音楽による心理療法によってどのように変化していくかという課題にとりくんできた。

昨年度の音楽療法の場への適応を目ざしたのに続いて本年度は、音楽による自己表現力の養成さらに実際の病棟における生活場面での変化を期待した。対象児は表のごとく 4 人である。